

令和6年度 第2回八幡地域協議会会議録（概要版）

日 時 令和6年12月11日（水）午後6時30分～午後8時30分

場 所 八幡タウンセンター 第1・第2会議室

出席者

（委員） 12名

1号委員 池田 義則 土井 礼子 池田 洋 小松 茂
佐々木慶則 佐藤 良平 後藤 正一 池田 修
加藤 隆子 御船 浩弥

2号委員 池田 満好 信夫 効次

欠席者 2名

1号委員 阿部 彩人 小野 良文

（事務局） 八幡総合支所長 池田 裕子 支所長補佐 加藤 裕昭、齋藤 理博

（傍聴者） 0名

議事日程 1 開 会

2 会議録署名委員の指名

3 会長あいさつ

4 協議

豪雨災害に係る案件の意見集約（市長への報告に向けて）

5 その他

6 閉 会

【協議の概略及びその結果】

今回は、令和6年度の市長報告会に向けて豪雨災害に係る市への提言について協議を行った。協議の中で委員から出された意見について、会長、副会長及び事務局が相談して集約した案を次回の協議会に提示し市長に報告することにした。

1 開 会

○信夫副会長開会

2 会議録署名委員指名

○副会長 委員名簿の順番に指名しているので、6番の佐藤良平委員にお願いをする。

3 会長あいさつ

○池田会長あいさつ

4 協 議

○議長 「豪雨災害に係る案件の意見集約（市長への報告に向けて）」

協議の「豪雨災害に係る案件の意見集約（市長への報告に向けて）」の前に「復旧・復興方針（案）」について事務局から説明。

＜ 事務局 説明 ＞

・方針案についてはもちろん、方針案にはとらわれず広く意見をいただきたい旨も説明。

○議長 皆さんが思っていること一言ずつお願いする。皆さんからの意見を集約させてもらいたい。

○小松委員 八幡小学校の裏を通る、日向川から荒瀬川につながる水路があるが、日向川の取水を止めてもその水路は溢れた。水路の途中にある沢から多くの水が流入したからだ。荒瀬川の水位が上がったことに影響していると思う。

6年前の大雨で壊れた取水口から荒町集落につながる水路があるが、今は農業としては必要とされていないことから取水口は直されていない。流雪溝としてなど生活用水路として利用できればよいと考えている。

避難訓練について、今年は簡易的なものとなったが、何か一つ重点を決めて行うのがよいと思う。今回は炊き出しに趣をおいて実施しようとか。皆で早くから準備もできると思う。

○池田洋委員 復旧・復興方針（案）について、環境アセスメントをどうとらえているのか。温暖化の影響について盛り込むか。市の方で議論していただきたい。

○土井委員 今回の大雨では、6年前の大雨の時と比べると、防災無線での避難についての呼びかけがなかったと思う。

来年も今回のような大雨がないとも限らないので、被災無いよう早めに対応してもらいたいと思う。

○池田義則委員 今回のような災害が来年またあるかもしれない。もっとひどいかもしれない。能登のように地震もあるかもしれない。不安である。

八幡地域より川の下流の話になるが、河口も浅くなっていると思う。河口も対応しないと上流に影響すると思う。

○御船委員 集落内で避難の呼びかけをしたが、コミュニティの大事さを感じた。高齢者だけの世帯とか把握しているのでよかった。

生活道に流れ出た土砂が数軒を孤立させたが、地元土木建設会社が対応してくれたのでよかった。農業用水路について、沢が埋まって水が流れていない。流雪溝でもあるので解決したいと考えている。

○加藤委員 沢の大水の影響で壊れている道が多い。畑につながる道もある。応急処理しているが二次災害が怖い。早急に対応してもらいたい。

防災体制の確立も必要と考える。皆での役割とか。自分に影響なければ共同作業に参加しないということがないようにしたい。

○池田修委員 沢から流れた土砂が水路をふさぎ、溢れた水が住宅地に流れた。被害が大きくなり車両も通行できなくなった。

被害の原因の沢の対応など、行政については、管轄があることで時間を要した。災害時に相談するときの窓口を一本化してもらいたい。

コミュニティは大事である。少数世帯では共同作業も難しいので見直しが必要と考える。

道路などインフラ復旧に遅さを感じる。川の流れが変わって中州ができている。早めに対応してもらいたい。

農業については来春に作付けできるようにしてもらいたい。自分たちでできることはするので予算不足にならないようにしてもらいたい。

復興方針のロードマップについて、工事の場所とかも詳しくなったら教えてもらいたい。

○後藤委員 大沢のコミセンについては、駐車場が浸水した。避難所としては検討が必要。

○佐藤委員 日向の農地について、道がない、水が来ないという状態になった。

乾燥施設について、つながる道が壊れたことによって施設利用困難となったが、市の担当課に相談したら、施設については過剰投資になると支援は受けられなかった。小規模災害の活用を提言されたが、業者が不足している。入札も難航すると思う。3年計画で復旧といっても3年後に工事開始かもしれない。他の被災地だが大手ゼネコンが関わっている。大手は対応が早い。酒田は大手入っているのだろうか。4年前の置賜の公共債は今年ようやく工事が始まったという。能登については、予算はついているが、工事を請ける人が不足している。不安である。不安を解消してもらいたい。入札には市内外問わずしないと難航すると思う。早期に対応できる業者が速やかに決まるようなシステムの検討を要望したい。

工事の優先順だが、被害の大きいところが優先されるのは当然だが、工事が長期間に及ばないところを優先することも検討してもらいたい。

農業者の平均年齢も考慮してもらいたい。再開できる時期に目途をつけてもらいたい。収入保険、水稻共済も作付けして初めて保障がある。作付けできない人のことも考慮してもらいたい。地域の当事者のことを考えてもらいたい。収量は落ちていてもコメの単価が上がっているので保障の対象にならない。

河川災害を例にすると、右岸で被害あっても左岸で被害ないと意識が共有できない。それと同じで八幡で被害あっても酒田市街で被害ないと被害意識が共有できない。地震と違って水害はその傾向が大きい。とにかく、早期に対応できる業者の確保を要望したい。

○佐々木委員 観音寺地区日向川沿いの一集落では大きな被害はなかったが、水路が溢れその影響を受けた世帯があった。しかし塚渕は違って被害小さくなかったようだ。日向川については中州が年々広がってきているし、コンクリート護岸になっていないところが少しずつ削られているところもあるようである。

避難所について、体育館では横になるのに床が固い。災害時にはケアする側の地元住民の集まりがよくない。

○副会長 今回の災害は、道路が水でいっぱいになり歩けなくなった。それで避難所に来る人が少なかった。水害時は自治会での対応が人もまとめやすいと感じた。大雨の場合、一時避難は短期間である。

避難所については、やはり床が固いのはよくない。マットとかあればよいと思う。

○議長 災害が起きたときは、八幡については本庁から各担当を一人ずつ集めて臨時的に窓口を設けてもらいたい。

○議長 皆様方のご意見いただきましたが、事務局と相談しながら副会長とともに皆さんの意見を集約しながらやっていこうと思います。よろしいでしょうか（会場より「はい」の声）。

5 その他

< 意見なし >

6 閉 会

○信夫副会長閉会